

まちの史跡めぐり

173

町文化財専門委員 石龍 豊彦夫

江戸時代のため池について(4)

粕屋町の駕与丁公園は駕与丁池を回る遊歩道と、かすやドーム、グラウンド、バラ園などの施設から成っています。ランニングコースは1周約4・219キロ。10周するとマラソン競技の42・195キロに匹敵する計算です。

公園の一角にその名のもとになった駕與八幡宮があります。駕は「かこ」、興は「こし」で、いずれも貴人の乗り物を指し、駕与丁の丁は成年男性の意で、それをかつぐ人のこと。与は興の新字体ですが、「興」が常用漢字表にないので、本来は別字である「与」を借りて、駕興を駕与と

表記するようになりました。しかし、神社名は元の字が用いられているというわけです。(以下、駕興と駕与の混用は依拠資料の違いによりあります。基本的に原文のままです。)

駕興八幡宮に立つ説明板「祭神と由来」によると、祭神は神功皇后・応神天皇・玉依姫命・住吉大神。神功皇后は応神天皇の母で、応神天皇(八幡神)が宇美八幡宮で生まれたとされていることは有名です。玉依姫命は神武天皇の母に当たり、玉依姫命を祭るのが宝満宮(龍門神社)です。住吉大神は住吉宮に祭られる「海の神」です。

駕与丁池周辺には「駕興丁廃寺」も想定されています。廃寺とは過去に有力な寺院があったことを示す言葉です。公園内の説明板には次のように書かれています(一部表記を変更)。

駕興丁廃寺

この駕興丁池からは、旧石器時代から奈良時代にかけての遺跡や遺物が数多く発見されています。とくに奈良時代(七一〇〜七九三年)を中心とする時期には、橋の北側や東側にかけて寺が築かれ、駕興丁廃寺と呼ばれています。

この廃寺の伽藍は発見されておりませんが、伽藍の中心部分に位置すると見られる塔の礎石から推定すれば、当時は20メートル近くの塔がそびえ立っていたと考えられます。

丁は奈良時代にも使われていた古い言葉とされています。駕興八幡宮近くに関係の石碑が並んでいます。

①「駕興丁池底樋・豎樋整備事業 竣工記念碑 粕屋町建立」(平成十年八月)

また、この場所には廃寺に直接関係する倉庫群(総柱建物)も発見され、瓦類や須恵器なども出土しています。

底樋も豎樋も池から取水するための施設のことです。竣工記念碑の裏面を一部抜粋します。

駕与丁池が須恵町乙植木(旧本合村)に隣接することからも、駕興丁廃寺は粕屋町・須恵町を含む、糟屋郡の広い範囲と関わりがあると考えることができるでしょう。貴人の存在を示す駕興丁という言葉からは、この付近が糟屋郡の政治的中心の一つだったと思われるものの、今のところ断定はできません。駕興

その後、堤防の補強改修のために、明和元年(一七六四年)、当時の普請奉行 平井清次郎があたりました。この改修工事は、底樋の延長改修も行われる大工

事でした。

寛政十二年(一八〇〇年)、上仲原・仲原・原町・阿恵・柚須・箱崎・津屋・多々羅の八ヶ村の庄屋は、郡役所に取水について嘆願書を出しました。その結果、若杉山の千石岩から、現須恵町の各池を水路で結び、赤石池から古の浦池・駕興丁池へと導入しました。さらに、文政七年(一八一四年)には、長卯平翁の計画により、篠栗町若杉山水源から新大間池に、新大間池から古の浦池まで水路を掘り、駕興丁池に流入させたのです。(以下略)

普請奉行 平井清次郎については、また別に取り上げたいと思います。

②「駕与丁公園の由来」

(平成七年十月)
あわせて平成五年の、建設大臣認定「つくり郷土賞」(自然とふれあう水辺づくり)の認定証のプレートが設置されています。

③「駕興丁堤」

(昭和五十四年五月)

この石碑を建てた安松国雄氏は「池守り」だったことが記されています。(以下、表現を少し変えています。)

「本堤は元和四年(一六一五年)の史実を更に遡る天正年間(一五七三〜一五八二)に築堤されたものと伝承されている。

明和元年(一七六八年)に行われた堤及び井樋の改修に当たった普請奉行平井清次郎筆取りの記録によれば池床式拾町七反歩、堤長百參拾六間、根置式拾九間とあり、延べ拾万人以上の人々の労役により数年の歳月をかけて築きあげられたものと推定される。

以来数百年、上下両仲原分百八拾貳町貳反七畝歩、箱崎博多出作分等百六町九反歩、合計貳百八拾九町一反七畝歩(寛政十二年溜池掛田数分賦之記録による)の農業用水として利用されてきたものである。」

溜池掛田数は、ため池の水を引いている田の面積。箱崎博多出作分は、箱崎村の内にある、博多商人が新田開発した田の意と思われれます。箱崎村の中でも、「出作分」は別に庄屋を置いて、

独立した村のように扱われました。「駕興丁堤」碑の内容は古文書の記述を前提にしている貴重です。

④「早歳備要記」

碑文はよく読み取れませんが、ため池に水がたまっているも、早めに利用するといざという時に水不足になる。そこをよく考えて、稲の生長に合わせて水を田に引くようにし、日照りの害に対する備えを怠るな、というような内容のよつです。



③「駕興丁堤」



④「早歳備要記」



①「駕興丁池底樋・豎樋整備事業 竣工記念碑 粕屋町建立」



②「駕与丁公園の由来」